

令和4年度 第4回みやま市地域公共交通協議会及び  
みやま市地域公共交通会議資料

議案第1号

令和4年度地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について

令和4年度地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について、次のとおり提案します。

記

- 1 地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価（1次評価）の一部変更（追記）について
- 2 地域公共交通調査事業の事業評価について

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名:みやま市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金、車両減価償却費等国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況 (内は昨年の評価です。)	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
みやま市 清水・上庄線	瀬高町の水上～清水～上庄～ 本郷地域を運行	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市報、HP、SNSでの情報発信を実施した。</li> <li>・利用者の声を受けて分かりやすい時刻表を作成し全戸配布を行った。</li> </ul>	A 計画通り事業は適切に実施された。	B (B) 【目標】4人/便 【実績】3.05/便 【目標比】-0.95人 目標達成に至らなかった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たに作成する地域公共交通計画の方針に基づき、鉄道や路線バスとの乗り継ぎ利便性を意識した運行ダイヤの検討及び利用者・運行事業者等の意見や要望を反映した運行ルート等の見直しを行い、利用者の利便性の向上につなげる。</li> </ul>
みやま市 瀬高・高田線 (太神・岩田経由)	瀬高町～高田町を太神・岩田 地域を經由して運行	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市報、HP、SNSでの情報発信を実施した。</li> <li>・利用者の声を受けて分かりやすい時刻表を作成し全戸配布を行った。</li> <li>・令和4年5月1日より運行ルート及びダイヤの一部見直しを実施した。</li> </ul>	A 計画通り事業は適切に実施された。	B (C) 【目標】5人/便 【実績】2.44人/便 【目標比】-2.56人 目標達成に至らなかった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たに作成する地域公共交通計画の方針に基づき、鉄道や路線バスとの乗り継ぎ利便性を意識した運行ダイヤの検討及び利用者・運行事業者等の意見や要望を反映した運行ルート等の見直しを行い、利用者の利便性の向上につなげる。</li> </ul>
みやま市 高田・瀬高線 (江浦・浜田・大江経由)①	高田町～瀬高町を江浦・浜田・ 大江地域を經由して運行 【車両減価償却費等国庫補助 金交付対象】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市報、HP、SNSでの情報発信を実施した。</li> <li>・利用者の声を受けて分かりやすい時刻表を作成し全戸配布を行った。</li> <li>・令和4年5月1日より運行ダイヤの一部見直しを実施した。</li> </ul>	A 計画通り事業は適切に実施された。	A (A) 【目標】6人/便 【実績】6.67人/便 【目標比】+0.67人 目標達成できた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たに作成する地域公共交通計画の方針に基づき、鉄道や路線バスとの乗り継ぎ利便性を意識した運行ダイヤの検討及び利用者・運行事業者等の意見や要望を反映した運行ルート等の見直しを行い、利用者の利便性の向上につなげる。</li> <li>・新型コロナウイルスの感染状況に留意しつつ、引き続き現在の利用状況を維持できるよう、コミュニティバス運行に関する周知や広報に取り組み、利用促進に努める。</li> </ul>

<p>みやま市 高田・瀬高線 (江浦・浜田・大江経由)②</p>	<p>高田町～瀬高町を江浦・浜田・大江地域を経由して運行 【車両減価償却費等国庫補助金交付対象】</p>	<p>・市報、HP、SNSでの情報発信を実施した。 ・利用者の声を受けて分かりやすい時刻表を作成し全戸配布を行った。 ・令和4年5月1日より運行ダイヤの一部見直しを実施した。</p>	A	<p>計画通り事業は適切に実施された。</p>	B (B)	<p>【目標】6人／便 【実績】4.39人／便 【目標比】-1.61人 目標達成に至らなかった。</p>	<p>・新たに作成する地域公共交通計画の方針に基づき、鉄道や路線バスとの乗り継ぎ利便性を意識した運行ダイヤの検討及び利用者・運行事業者等の意見や要望を反映した運行ルート等の見直しを行い、利用者の利便性の向上につなげる。</p>
<p>みやま市 高田・瀬高線 (国道209号経由)①</p>	<p>高田町～瀬高町を国道209号を経由して運行</p>	<p>・市報、HP、SNSでの情報発信を実施した。 ・利用者の声を受けて分かりやすい時刻表を作成し全戸配布を行った。 ・令和4年5月1日より運行ダイヤの一部見直しを実施した。</p>	A	<p>計画通り事業は適切に実施された。</p>	B (B)	<p>【目標】10人／便 【実績】5.48人／便 【目標比】-4.52人 目標達成に至らなかった。</p>	<p>・新たに作成する地域公共交通計画の方針に基づき、鉄道や路線バスとの乗り継ぎ利便性を意識した運行ダイヤの検討及び利用者・運行事業者等の意見や要望を反映した運行ルート等の見直しを行い、利用者の利便性の向上につなげる。</p>
<p>みやま市 高田・瀬高線 (国道209号経由)②</p>	<p>新船小屋からJR瀬高駅間を運行</p>	<p>・市報、HP、SNSでの情報発信を実施した。 ・利用者の声を受けて分かりやすい時刻表を作成し全戸配布を行った。</p>	A	<p>計画通り事業は適切に実施された。</p>	C (C)	<p>【目標】2人／便 【実績】0.01人／便 【目標比】-1.99人 目標達成に至らなかった。</p>	<p>・新船小屋からJR瀬高駅間を山川・瀬高線③に接続するための回送的な運行のため、利用者が限られている。 ・運行ダイヤ、運行ルートについては見直しを検討する。</p>

<p>みやま市 山川・瀬高線①</p>	<p>山川町の真弓公民館～瀬高町の市立図書館を国道443号線を経由して運行</p>	<p>・市報、HP、SNSでの情報発信を実施した。 ・利用者の声を受けて分かりやすい時刻表を作成し全戸配布を行った。 ・令和4年5月1日より運行ダイヤの一部見直しを実施した。</p>	A	<p>計画通り事業は適切に実施された。</p>	B (B)	<p>【目標】9人／便 【実績】7.13人／便 【目標比】-1.87人 目標達成に至らなかった。</p>	<p>・新たに作成する地域公共交通計画の方針に基づき、鉄道や路線バスとの乗り継ぎ利便性を意識した運行ダイヤの検討及び利用者・運行事業者等の意見や要望を反映した運行ルート等の見直しを行い、利用者の利便性の向上につなげる。</p>
<p>みやま市 山川・瀬高線②</p>	<p>山川町のバイオマスセンター～瀬高町の市立図書館を国道443号を経由して運行</p>	<p>・市報、HP、SNSでの情報発信を実施した。 ・利用者の声を受けて分かりやすい時刻表を作成し全戸配布を行った。 ・令和4年5月1日より運行ダイヤの一部見直しを実施した。</p>	A	<p>計画通り事業は適切に実施された。</p>	A (A)	<p>【目標】2人／便 【実績】3.93人／便 【目標比】+1.93人 目標達成できた。</p>	<p>・新たに作成する地域公共交通計画の方針に基づき、鉄道や路線バスとの乗り継ぎ利便性を意識した運行ダイヤの検討及び利用者・運行事業者等の意見や要望を反映した運行ルート等の見直しを行い、利用者の利便性の向上につなげる。 ・新型コロナウイルスの感染状況に留意しつつ、引き続き現在の利用状況を維持できるよう、コミュニティバスに関する周知や広報に取り組み、利用促進に努める。</p>
<p>みやま市 山川・瀬高線③</p>	<p>瀬高町のJR瀬高駅～山川町の真弓公民館を国道443号を経由して運行</p>	<p>・市報、HP、SNSでの情報発信を実施した。 ・利用者の声を受けて分かりやすい時刻表を作成し全戸配布を行った。 ・令和4年5月1日より運行ダイヤの一部見直しを実施した。</p>	A	<p>計画通り事業は適切に実施された。</p>	C (C)	<p>【目標】2人／便 【実績】0.88人／便 【目標比】 -1.12人 目標達成に至らなかった。</p>	<p>・JR利用者が山川方面へ帰宅するために必要な系統である。利用者の利便性の向上を図るため、JR瀬高駅以降は降車のみとしている。</p>
<p>みやま市 高田南部・西部線 (循環)</p>	<p>高田町のあたご苑～高田町の西鉄開駅を循環して運行</p>	<p>・市報、HP、SNSでの情報発信を実施した。 ・利用者の声を受けて分かりやすい時刻表を作成し全戸配布を行った。</p>	A	<p>計画通り事業は適切に実施された。</p>	B (B)	<p>【目標】4人／便 【実績】3.34人／便 【目標比】 -0.66人 目標達成に至らなかった。</p>	<p>・1便当たりの利用者数は増加しているが、目標達成に至らなかった。 ・新たに作成する地域公共交通計画の方針に基づき、鉄道との乗り継ぎ利便性を意識した運行ダイヤの検討及び利用者・運行事業者等の意見や要望を反映した運行ルート等の見直しを行い、利用者の利便性の向上につなげる。</p>

<p>みやま市 山川・高田線 (亀谷・竹飯経由)</p>	<p>高田町の南部及び西部地域をJR渡瀬駅からあたご苑、西竹飯を経由して山川げんきかんまで運行</p>	<p>・市報、HP、SNSでの情報発信を実施した。 ・利用者の声を受けて分かりやすい時刻表を作成し全戸配布を行った。 ・令和4年5月1日より運行ダイヤの一部見直しを実施した。</p>	A	<p>計画通り事業は適切に実施された。</p>	C (C)	<p>【目標】4人／便 【実績】1.58人／便 【目標比】-2.42人 目標達成に至らなかった。</p>	<p>・新たに作成する地域公共交通計画の方針に基づき、鉄道との乗り継ぎ利便性を意識した運行ダイヤの検討及び利用者・運行事業者等の意見や要望を反映した運行ルート等の見直しを行い、利用者の利便性の向上につなげる。</p>
<p>みやま市 山川・高田線 (田浦・田尻経由)①</p>	<p>高田町の南部及び西部地域をJR渡瀬駅からあたご苑を経由して山川げんきかんまで運行</p>	<p>・市報、HP、SNSでの情報発信を実施した。 ・利用者の声を受けて分かりやすい時刻表を作成し全戸配布を行った。 ・令和4年5月1日より運行ルート及びダイヤの一部見直しを実施した。</p>	A	<p>計画通り事業は適切に実施された。</p>	C (C)	<p>【目標】4人／便 【実績】0.51人／便 【目標比】 -3.49人 目標達成に至らなかった。</p>	<p>・山間部を通る系統であるため、コミュニティバスが必要な地域である。 ・新たに作成する地域公共交通計画の方針に基づき、鉄道との乗り継ぎ利便性を意識した運行ダイヤの検討及び利用者・運行事業者等の意見や要望を反映した運行ルート等の見直しを行い、利用者の利便性の向上につなげる。</p>
<p>みやま市 山川・高田線 (田浦・田尻経由)②</p>	<p>高田町の南部及び西部地域を山川げんきかんからあたご苑を経由しヨコクラ病院前まで運行</p>	<p>・市報、HP、SNSでの情報発信を実施した。 ・利用者の声を受けて分かりやすい時刻表を作成し全戸配布を行った。 ・令和4年5月1日より運行ルート及びダイヤの一部見直しを実施した。</p>	A	<p>計画通り事業は適切に実施された。</p>	B (B)	<p>【目標】4人／便 【実績】2.10人／便 【目標比】-1.90人 目標達成に至らなかった。</p>	<p>・山間部を通る系統であるため、コミュニティバスが必要な地域である。 ・新たに作成する地域公共交通計画の方針に基づき、鉄道との乗り継ぎ利便性を意識した運行ダイヤの検討及び利用者・運行事業者等の意見や要望を反映した運行ルート等の見直しを行い、利用者の利便性の向上につなげる。</p>

# 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定等に係る事業)

令和5年 1月 日

協議会名:みやま市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:令和4年度地域公共交通調査事業(地域公共交通計画策定事業)

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通計画等の計画策定等に向けた方針
<p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート調査等の実施</li> <li>・上位関連計画等との位置づけの整理</li> <li>・公共交通の現状と課題の整理</li> <li>・法定協議会の開催</li> <li>・計画案の作成</li> </ul> <p>【結果概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民アンケート(2,500名)およびコミュニティバス利用者向けのアンケート調査を実施し、移動特性やニーズ等について把握した。</li> <li>・上位計画である総合計画や、総合戦略等の関連計画との位置づけを整理した。</li> <li>・現状把握とアンケート調査等の結果分析を踏まえ、課題を抽出、整理した。</li> <li>・みやま市に適した公共交通について検討し、計画の素案を作成。</li> </ul>	<p>A 当初の計画どおりに事業は適切に実施された。</p>	<p>【基本方針】</p> <p>コミュニティバス「くすっぴー号」の抜本的な見直しにより公共交通の持続性を高め、安心感をもって暮らし続けられるまちをつくる</p> <p>目標① コミュニティバス「くすっぴー号」を新しい運行形態へと転換する</p> <p>目標② コミュニティバスと路線バス・鉄道等の広域移動手段との連携とネットワーク化により、市内移動から広域移動まで多様な移動ニーズに対応する</p> <p>目標③ 多様な主体や関連分野との連携により地域全体で公共交通を支える仕組みづくりの検討、公共交通の利用促進や情報提供の充実を図り、公共交通手段の持続性の確保に努める</p>

### 調査事業の概要

#### みやま市の概要

みやま市は福岡県の南部に位置し、柳川市や八女市、大牟田市などと隣接している。市域の多くは筑紫平野が広がっており、西部には有明海の干拓によって開かれた田園地帯が広がり、東部には清水山やお牧山が連なっている。本市の人口は35,788人(令和4年3月末現在)で減少傾向にあり、高齢化率は38.9%(同)と高齢化が進行している地域である。

#### 調査事業の概要

急激に進行する高齢化や自家用車の普及、新型コロナウイルス感染症の影響により、長期的な公共交通の低迷とそれに伴う運行欠損の増加が続くなか、地域社会全体の価値を高めるためには、現在のあり方を見直し、地域の特性を踏まえた利便性が高く持続可能な地域の公共交通体系を構築し、維持していくことが重要である。

下記の調査作業等を踏まえ、市の公共交通にかかる現状分析と今後のあり方を整理し、市の実態にあった持続可能な地域公共交通のあり方を示した上で、その実現のために実施すべき施策等を整理・推進していくことについて協議会で検討し、「みやま市地域公共交通計画」を基本方針として取りまとめる。

- ・アンケート調査、事業者・利用者ヒアリング等の実施
- ・上位関連計画等との位置づけの整理
- ・公共交通の現状と課題の整理

### 基礎データ

合併状況: 平成19年1月に瀬高町、山川町、高田町が合併  
 人口: 35,788人(令和4年3月末時点)  
 面積: 105.21平方キロメートル  
 過疎地域等指定: 過疎  
 高齢化率: 38.9%(令和4年3月末時点)  
 系統数: コミュニティバス9路線13系統  
 運行便数: 1日2便~6便  
 自治体負担額: H28(0千円)、H29(0千円)、H30(23,750千円)  
 R1(36,311千円)、R2(37,068千円)、R3(34,537千円)  
 協議会開催数: 協議会年5回、分科会4回(R4年度予定)

### 調査前の地域交通状況(Before)

本市の交通状況は、3つの駅を有するJR鹿児島本線が市中央部を南北に縦断し、その西側を2つの駅を有する西鉄天神大牟田線が並走している。また、市東部には九州新幹線が走り、筑後橋小屋駅が隣接している。バス路線として、JR瀬高駅から柳川市まで堀川バスが運行している。市では、平成20年4月より高齢者等を対象に、生活交通手段の確保を目的として、福祉バスを市内全域で運行していた。しかし、交通利便性の向上を求める声も多く、平成30年3月よりみやま市コミュニティバス「くすびー号」の運行を開始した。

近年は人口減少や自家用車の進展に伴う利用者の減少に加え、新型コロナウイルス感染症の影響による外出自粛に伴い、利用者が減少している。

現在のコミュニティバスの運行体制では住民ニーズに対応できていない面があり、ルートや便数、バスの位置などの見直しのほか、既存の交通資源や新たな移動サービスを組み合わせること、公共交通の利便性を確保しつつ、効果的な施策を展開していく必要がある。

### 調査後の地域交通計画(After)

#### 施策の概要(案)

- 施策①: 拠点間を結ぶ地域内幹線の強化**
- ・拠点間における速達性や運行頻度の維持・向上に向け、高校への通学手段としての活用も視野に、地域内幹線(コミュニティバス)の運行ルートやダイヤ、便数、バス位置等を見直し、地域幹線・地域内幹線・支線の乗り継ぎポイントとなる箇所を状況確認を行うとともに、必要に応じて待合環境の整備を推進(周辺施設との連携も視野)
- 施策②: コミュニティバスと鉄道・路線バスとの接続(乗り継ぎ)改善**
- ・鉄道や路線バスへの乗り継ぎ需要が高い時間帯を中心に、コミュニティバスのダイヤ見直しを行うことで乗り継ぎ利便性を向上
  - ・広域幹線の二次交通としての機能を高めることで、鉄道・路線バス等の利用を促進し、広域幹線のサービス水準を維持
- 施策③: 自動運転サービスの必要性・あり方の検討**
- ・自動運転サービスの利用状況・事態を踏まえ、今後のあり方を検討
- 施策④: 支線部分のデマンド型乗合タクシー等への転換等の検討・推進**
- ・需要に応じたデマンド乗合タクシーへの転換など、運行形態(路線定期/区域運行等)やサービス水準の抜本的な見直しを実施
  - ・周辺への公共交通空白地域へのサービス圏の拡大なども視野に、AIオンデマンド<sup>※1</sup>なども含めた新たな移動サービスへの転換を段階的に検討・推進
- 施策⑤: タクシー等の効果的な活用**
- ・高齢者等運転免許自主返納支援事業の継続的な実施、バス等の利用が困難な市民に対する新たな移動支援策の検討などによりタクシーの効果的な活用を推進
  - ・タクシーを活用した「定額制の移動サービス<sup>※2</sup>」や「相乗り」利用の仕組みなど、新たな枠組みによる柔軟な移動手段の確保を検討
- 施策⑥: 広域交通手段の利用促進と維持・確保**
- ・乗り換え環境の整備を実施することで、路線バス、JRや西鉄、九州新幹線の利用しやすさを確保するとともに、施策③④と併せてサービスや情報提供を充実することで利用を促進
  - ・路線バス、JRや西鉄、九州新幹線の運行体制の維持(ダイヤ、便数、管理体制等)
  - ・広域移動を可能とする周辺自治体との接続・結節に向けた取組みの検討
- 施策⑦: 情報提供の充実と複数の移動サービス間の利用環境構築**
- ・移動サービス間の乗り継ぎも含めた公共交通に対する一元的・総合的な情報提供
  - ・新たな移動サービスの導入にあわせて「乗り方教室」「出前講座」の開催や、利用意識の啓発に向けた取組みの推進(モビリティマネジメント<sup>※3</sup>)
  - ・コミュニティバスのオープンデータ化<sup>※4</sup>の推進とMa a S<sup>※5</sup>導入の検討
- 施策⑧: 観光周遊促進策の展開**
- ・周辺自治体とも連携した広域的な観光キャンペーンの展開や、移動サービスと目的地となる施設のサービス等を組み合わせた企画乗車券・周遊観光メニューの開発を推進
- 施策⑨: 関連分野・地域活動と連携した利用促進、移動需要の創出**
- ・各種イベントへの公共交通での来訪促進の強化や、公共交通の運行ルート・ダイヤを考慮した関連分野での催しや地域活動の実施など、公共交通と外出目的との連動やイベントなどと公共交通を合わせた体系的な情報提供を図ること利用を促進
- 施策⑩: 多様な主体が移動サービスを支える仕組みの検討**
- ・施策⑧などにあわせて、公共交通での外出の目的地となる施設が負担金・協賛金などの形で運行費用の一部を負担する、利用者に対する公共交通運賃割引サービスを実施するなど、多様な主体が公共交通を支える仕組みの構築を検討

#### ■施策展開イメージ(案)

